

2024
3

長崎県

長崎県の“土木”のいまがわかります NO. 54

DOVOC通信 ながさき

特集
1

建設業の働き方改革

特集
2

盛土規制法 (既存盛土調査)

デミー博士の「ラブ♡ラブ♡DOVOC」

DOVOCインフォメーション



青春 BUILD プロジェクト活動における諫早高校写真部の撮影のようす

2. 長崎県の週休2日工事の取り組み

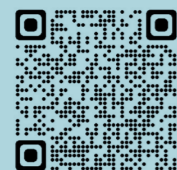
長崎県では、建設業における時間外労働縮減と現場環境改善の一環として、**週休2日工事の推進に取り組んでいます。**

- 長崎県が発注する工事において「**週休2日モデル工事**」を実施しています。
週休2日モデル工事とは、現場や現場事務所が閉所された状態を週に2日確保することを目的に発注された工事です。

閉所された状況により発生する経費などを工事費用として計上することとしております。令和5年10月からは、建設業における週休2日の普及促進をより一層図るため、週休2日モデル工事において**発注者指定型工事**を実施しております。

長崎県内の国、市町などの機関と協力し、毎月第2・第4土曜日・日曜日を一齐連休にするキャンペーンを実施するなど、制度推進に努めています。*令和6年度も実施します。

県の発注工事において、週休2日工事の実施件数は、増加しています。



週休2日工事に関する
詳しい情報は、
国土交通省のHPへ



時間外上限規制に関する
詳しい情報は、
厚生労働省のHPへ

特集
01

建設業の働き方改革

～建設業における時間外労働の上限規制と週休2日の取り組み～

時間外労働の上限規制については、働き方改革関連法による改正後の労働基準法により法定化されており、**建設業においては2024年4月1日から時間外労働の上限規制が適用されます。**

特集では、時間外労働の上限規制の概要と、時間外労働縮減の一助となる週休2日への取り組みを紹介します。

1. 建設業における時間外労働の上限規制

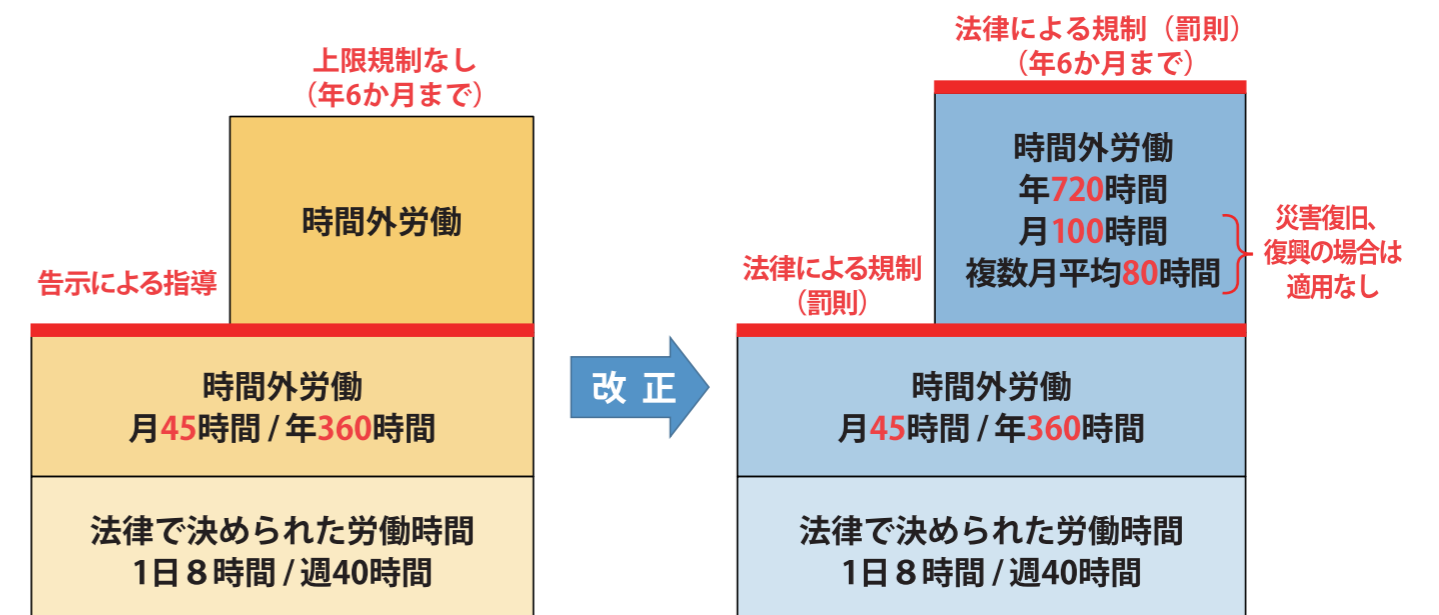
時間外労働の上限が罰則付きで法律に規定されます。建設業には、2024年4月以降、以下の上限規制が適用されます。

- 原則、**月45時間以内、年360時間以内**
臨時的にこれを超える必要がある場合でも、
- 1か月45時間を超える時間外労働は年間6回まで
- 時間外労働の時間の上限は1年720時間まで
- 休日労働と合わせても1か月100時間未満、2～6か月間で平均して80時間以内
となります。

ただし、災害の復旧・復興の事業を行う場合には、1か月間の時間外労働や休日労働の時間などの規制が適用されません。

上記に違反した場合には、罰則(6か月以下の懲役または30万円以下の罰金)が科されるおそれがあります。

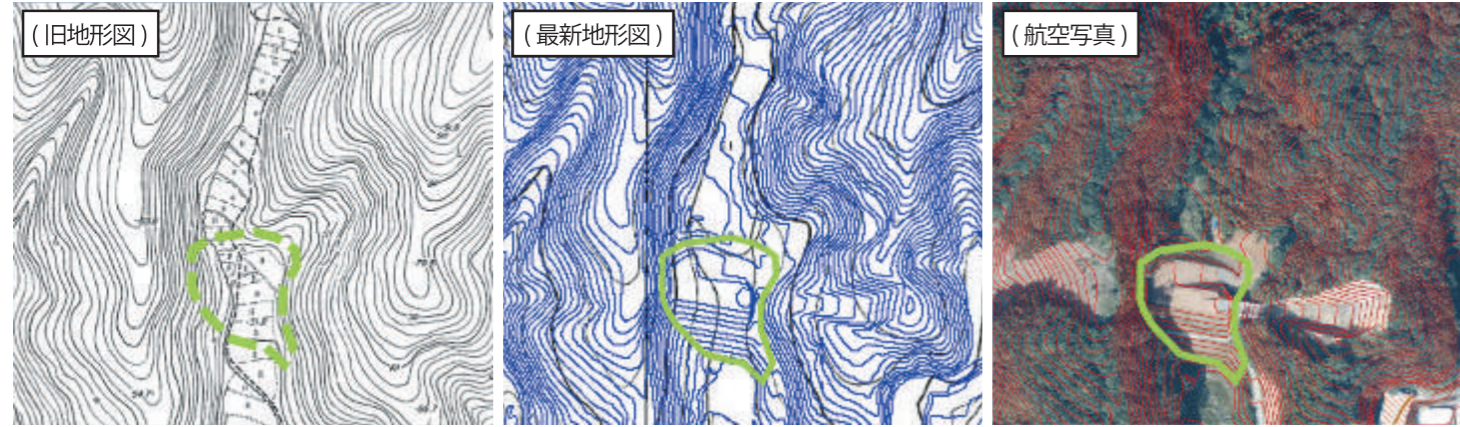
建設業における上限規制の改正



既存盛土の分布調査

分布調査は、古い地形図と最新の地形図とを重ね合わせて、地形の変化を比較、判読して、盛土や切土を抽出します。抽出後は、面積、高さ、利用状況等の把握を行い、分類する作業を行います。

※調査においては3次元点群データから作成した地形図も活用しています。



盛土される前は、谷間にある田んぼでした。

新旧地形図を比較して、盛土を抽出。

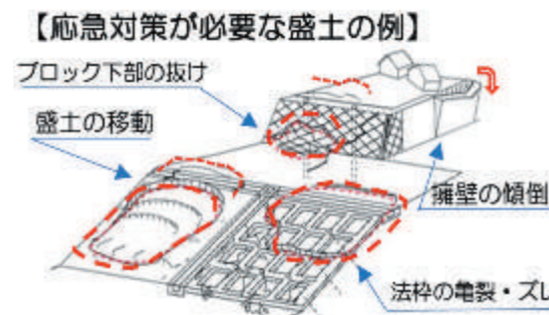
抽出した盛土を、3次元点群データや航空写真等で確認。

既存盛土の応急対策必要性・安全性

既存盛土の分布調査を行った後、応急対策が必要な盛土であるか、安全性を確認する必要がある盛土であるかを評価するため、各種資料を参考に机上での確認と現地での確認を行います。



<危険な盛土、盛土移動のイメージ>



調査への協力をお願い

既存盛土の調査は、今後数年かけて実施します。現地調査の方法は、公道等からの目視確認や必要に応じて現地の盛土を直接確認します。つきましては、県や中核市（長崎市、佐世保市）が行う現地調査等について、ご理解、ご協力をお願いします。



<現地立入調査のイメージ>

特集
02

盛土規制法（既存盛土調査）

概要 宅地造成及び特定盛土等規制法（通称：盛土規制法）とは・・・

盛土規制法は、盛土等による土砂災害から国民の生命・身体を守るため、土地の用途（宅地、農地、森林等）にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制するため、令和5年5月26日に施行されました。

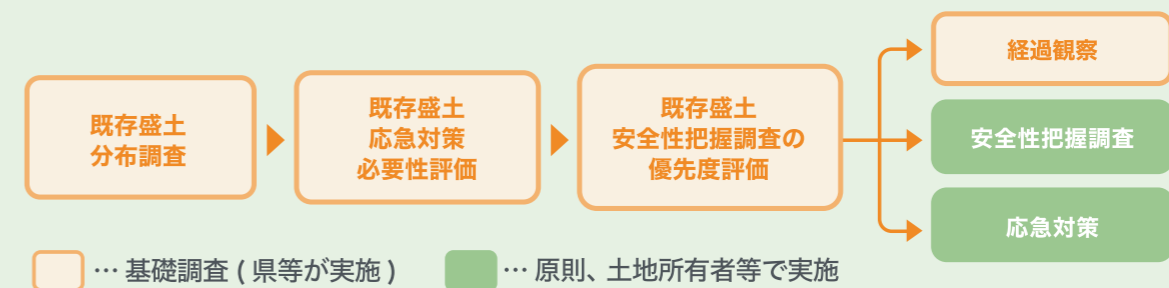
長崎県及び中核市（長崎市、佐世保市）では、今年度から『規制区域の指定』及び『既存盛土』の基礎調査を実施しています。

※規制区域の指定については、DOVOC通信ながさき10月号（No.52）の特集02を参照ください。（QRコード参照）



基礎調査（既存盛土）とは

既存盛土とは、過去に施工され、すでにある（現存する）盛土のことです。調査は、盛土の安全性の把握を目的として、まず最初に既存盛土等の抽出を行い、分布の把握を行います。次に、抽出した既存盛土について「応急対策の必要性」や「安全性把握調査を行う優先度」の評価を行います。



※抽出した既存盛土がすべて危険な盛土というわけではありません。

今回の調査は、既存盛土が危険な状態でないか、もしくは危険な状態になろうとしていないかなど、盛土の状態を評価する調査です。調査結果に基づき、今後、既存盛土の経過観察、安全確認のための把握調査、又は応急対策を行うべきかの判断を行います。



<公道等からの調査状況のイメージ>

作品介绍



道路の下に

長崎県立諫早高等学校
2年 荒木 楓雅 (アラキ フウガ)

工事現場の見学をさせていただいて、いつも何気なく歩いている道路の中身を初めて見て鉄筋が等間隔で並んでいて迫力を感じました。また、この一面に並んでいる鉄筋を組み立てるのは大変な作業なんだろうなと思作業をされている方はすごいなと感じました。毎日利用している道路の下にはこの鉄筋があってそれを造っている人がいるおかげで丈夫な道路が使えるということ意識してこれからすごしていきたいと思いました。



道路の強さの礎

長崎県立諫早高等学校
1年 藤山 葵 (フジヤマ アイ)

鉄筋をひとつひとつ手作業で繋げているのを見てとても驚きました。鉄筋を繋げる作業は、道路工事の基盤であり、この写真のこの一瞬が私たちにとってどれだけ欠かせないものであるのかを実感させてくれます。また、このような道路工事のプロセスの一端を垣間見ることが出来てよかったです。



一所懸命

長崎県立大村高等学校
1年 金子 茉奈 (カネコ マナ)

工事は大人数だと思っていただけ少ない人数でもできるんだと思いました。作業はとても早いのに丁寧に綺麗に繋がられてあって安全に気をつけながら力を合わせて作業をされていてすごいなと思いました。



おどろき

長崎県立大村高等学校
2年 御厨 彩葵 (ミクリヤ サキ)

バックホウで2mの縁石を持ち上げたり、物と物のあいだに砂を入れたり細かい作業をしていて、職人技などおどろきました。協力し合って私たちが毎日通る道ができるのだと思うとすごいなと感じました。



人魚のように

長崎県立長崎東高等学校
2年 渡部 光 (ワタベ ヒカル)

潜水士が海の中へ潜っていくときの一枚。海の中のブロックを撤去する作業で、潜水士は海中の様子やブロックの様子を地上にいる作業員やクレーンの操縦士に合図を出すために潜っている。水中で泳ぎやすいように足ひれ(フィン)をつけている。クレーンの操縦室からシャッターを切ったが、そこから見える潜水士の姿がまるで人魚のようだった。



第二の手

長崎県立長崎東高等学校
2年 渡部 光 (ワタベ ヒカル)

撤去するブロックをクレーンで浚渫船へ移しているときの一枚。何十トンもあるブロックを手元のレバーを駆使して運んでいる。少しでも操作を誤ってしまうと惨事になりかねない。操縦士は大きいクレーンを自分の手であるかのように、慣れた手つきで慎重に動かしていた。淡々と仕事を終えた操縦士の姿はとてもかっこよかった。



Instagram 連動企画

青春 BUILD プロジェクト ～高校生が見た土木の世界～



諫早高校写真部のみなさんと (於:長崎県諫早市森山町)

ラブラブ土木ーみなさんこんにちは、土木学者のデミー博士です。今回は、普通科高校の写真部の生徒が「はじめて見た土木の世界」をきり撮った写真をおして土木の魅力を伝える「青春BUILDプロジェクト」をお届けします。

土木は、私たちの暮らしに欠かせないものです。しかし、土木業界で働く人が減っています。また、子供たちが憧れる職業に土木の文字はありません。このままでは、私たちの暮らしは、どうなってしまうのでしょうか？通れなくなった道、飲めなくなった水道水、遊べなくなった公園。激甚化する自然災害やいつ起きてもおかしくない大地震の対応もできなくなるかもしれない。土木の危機は市民の危機です。

そのような中、土木関係者は、認知度向上やイメージアップのための広報活動を精力的に行っています。しかし、土木関係者自身、土木があたりまえになつてしまっているため、魅力や価値を忘れている人が

たくさんいます。そのよな人たちが広報を行っても効果的に土木は伝わります。

そこで、プロジェクトでは、長崎(諫早、大村、長崎東)、佐賀(唐津西、武雄)、大分(大分上野丘)の6校の普通科高校の写真部に協力いただき、国土交通省が整備を進める道、河川、港の工事現場で撮影を行いました。高校生は、はじめての土木体験になります。はじめだからこそ、驚きや発見がたくさんあります。その驚きや発見を写真で表現してもらおうことで、市民に近い感覚で、自然に土木を届けることができます。

本紙では、長崎県内で撮影された写真の一部を紹介していますが、掲載できていない写真は、プロジェクトのInstagramで公開していきますので、チェックしてください。

高校生が土木をどのように感じ、どのように語り合ったのかをコメントと合わせてお楽しみください。ラブラブ土木ー！



青春BUILDプロジェクトのInstagramのQRコードはコチラ！

Profile

1979年生 / 福岡県出身 / 長崎大学 / 工学博士 / 防災士 / 内閣府地域活性化伝道師 / YouTuber / 国土交通大臣表彰 / 軍艦島 3D でグッドデザイン賞 / コカ・コーラ環境教育賞 / メディア出演 1000 件以上



出 水 享

デミー博士
のみな
あきら

執筆 者 紹 介

住宅費の負担も減らす、長崎発祥の住まいのブランド



長崎型住宅、はじまるにや。



考えたい！
「資産になる」家づくり

長崎型住宅

検索



もっと！知りたい
コストのこと

「長崎型住宅」は長崎の地元企業と共に創り、育む、良質で長持ちする住宅です。
永く大切に使うことで住宅費負担を軽減します。

なに？なに？
長崎型住宅の推しポイント

まずは
簡単に教えて！

性能が高い

国が定める認定基準を満たした家です。
(認定 長期優良住宅)

アフターフォロー&付加価値・良

登録事業者による地域密着の維持管理。
資産価値も高めます。

お問い合わせ窓口

- お財布に優しい理由
- 事業者登録の案内

公開中！

地域工務店限定

長崎の専門家が設計・施工を行います。
(県の審査による登録制)

トータルコスパ・良

長持ちする家は、コスパが良いのです。
試算上、年間30万円の負担減が可能！

長崎県土木部住宅課
Tel 095-894-3104
特設サイト 解放！
<https://nagasaki-house.com/>



Build Up Nagasaki 長崎県建設業就職ポータルサイト



長崎の未来をつくる『建設業の魅力』県内企業で活躍する先輩たちのインタビュー記事やPR動画など、建設業の魅力を発信しています。



ポータルサイトへのアクセスはこちら
<https://n-navi.pref.nagasaki.jp/build-up-nagasaki/>

ラブラブDOVOCオリジナルステッカープレゼント

「DOVOC 通信ながさき」ではアンケートを募集しています。アンケートに答えていただいた方の中から抽選で50名様にラブラブDOVOCのロゴマークステッカーをプレゼント！



- ・ステッカーの大きさは名刺サイズ (55mm × 91mm)
- ・雨や太陽の光に比較的に強い素材でつくられているのでヘルメット、スマートフォン、自家用車などに貼り付け可能。



「DOVOC通信ながさき」では、読者の皆様からのご質問・ご感想をお待ちしています。

宛先◎〒850-8570 長崎市尾上町 3-1 長崎県土木部建設企画課 ☎095-894-3021 FAX095-894-3461 ✉s08080@pref.nagasaki.lg.jp